

キャラクター名 “アンディアナ”・ジョーンズ・ジュニア プレイヤー名

メインクラス	ウォーリア	Lv.1:		レベル	3
サポートクラス	シーフ	Lv.1:	シーフ	性別	男
称号クラス				年齢	43
種族	ヴァーナ狼族			境遇	放浪者
出自 (効果)	学者			目標	探索

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	15	9	12	6	12	6	8
ボーナス	5	3	4	2	4	2	2
クラス修正	1	2	2	0	1	0	0
他修正							
能力値	6	5	6	2	5	2	2

HP	54
MP	35
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ヘビーウィップ	至近	-2	7	0	0	0	0	0
左手									
頭部	ハット					1			
胸部	アイアンサイド				-1	7			-1
補助	トラベラーズマント					2			
装身具									
能力値			5	0	6	0	2	11	11
スキル								1	5
その他									
総計(右)			3	7					
総計(左)			5	0	5	10	2	12	15
総計(両)									m
ダイス数			3 d	2 d	3 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	5			5	+ 2 d
トラップ解除	5			5	+ 2 d
危険感知	5			5	+ 2 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

現在重量: 3

最大重量: 17 所持金: 110 預金・借金:

所持品	
冒険者セット	
ベルトポーチ	
ポーションホルダー	
HPポーション	x3
MPポーション	x2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
オーバーパス	★	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果:	狼族、移動力+5m、行動値に+1							
バッシュ	4	4	メジャー	武器	単体	命中	-	
効果:	武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SLd]							
バーサーク	3	3	マイナー	-	自身	-	-	
効果:	武器攻撃ダメージを+[SL x3]、リアクション-1D							
ボルテクスアタック	1	-	-	-	自身	-	-	
効果:	武器攻撃と同時に使用。対象単体に変更後、攻撃ダメージを+[CLx10]							
	1							
効果:	1							
効果:								
アームズマスタリー:鞭	1	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果:	鞭の命中+1D							
バタフライダンス	1	-	パッシブ	-	自身	-	-	
効果:	回避 +1D							
ランナップ	1	3	セットアッププロセス	-	自身	自動	-	
効果:	戦闘移動、エンゲージ離脱を行う							
	1							
効果:	1							
アイデンティファイ	★	-	パッシブ	-	-	-	-	
効果:	アイテム鑑定に+1D							
アスレチック	★	-	パッシブ	-	-	-	-	
効果:	登攀や跳躍に+1D							
ファインドトラップ	1	-	-	-	-	-	-	
効果:	トラップ探知 +1D							
リムーブトラップ	1	-	-	-	-	-	-	
効果:	トラップ解除 +1D							

遺跡調査の学者を親(どちらもヴァーナ狼族)に持つ。
家には色々な魔法の品が置いてあり、それを見ながら幼少を過ごした。
また、遺跡を調査するという親の職業柄、幼い頃から転々と住む場所を変えて来た。

親と同じく学者になりたかったが学力が足りず落ちてしまう。学者にはなれなかったが魔法の品を探するという思いは諦め切れずに家を飛び出してしまった。

あれから30年、遺跡調査を実施する神殿に非常勤として雇われ、魔法の品を発掘しては神殿に奉納したり、自ら未開の遺跡に潜っては魔法の品を発掘し、それを町で売り生計をたてている。

父親から「ジュニア」と呼ばれるのを嫌っている。
ジュニアと呼ばれるのを嫌い、勝手に「アンディアナ」と名乗る。
「アンディアナ」は昔飼っていたネコの名前である。
焦げ茶色の古い帽子を大切にしている。

家を飛び出したのが17歳の時、飛び出して13年後(この時35歳)に、立ち寄った町で知り合った女性(この時25歳)と結婚したと報告し始めて親元へ戻った。親は定年退職済みで、遺跡調査で立ち寄って気に入った町に住み着いていた。

父親は死去して母親は62歳である。
子供は女1(現7歳)男1(現5歳)で、生まれて3年間は毎日家に戻っていた。
ある程度成長したという事で、1年ほど前から少しずつ本来の仕事をするようになった。
だが、心配のためこまめに家に戻っている。